



人間にはどうしてしっぽがないの

しっぽのあとだけは残っている

たしかに、人間の体には、どこをさがしてもしっぽは見られません。しかし、お母さんのおなかの中で、命の始まったばかりの赤ちゃんには、育ちはじめて2か月めくらいまでの間、ちゃんとしっぽがあるのです。このしっぽは、大昔の人間の祖先の動物から、人間がだんだんと進化し、姿を変えてきたという証拠なのです。

この、お母さんのおなかの中の赤ちゃんのしっぽは、育ちはじめて2か月めくらいにはなくなり、何個かの、しっぽのなごりのような骨だけが残ります。これを「び骨」といいます。よく「びてい骨」といっているのは、ここのことで、背骨の下のところにあり、人間ならだれでももっている、おしりの骨です。

人間のしっぽがなくなったのは

サルやネコなど、しっぽがいろいろな動物にはあるのに、人間には、生まれる前の赤ちゃんの、ほんの一時期にしかありません。ほかの動物には残っているのに、人間のしっぽがなぜなくなったか、その理由については、まだ、よくわかっていないのです。

人間だけでなく、チンパンジーやオランウータンなど、しっぽのないサルもいます。これらは、サルの中でも、かなり人間に近いサルだといわれています。（監修・保志 宏）

